

令和5年度全国学力・学習状況調査結果について

彦根市教育委員会
令和5年8月

令和5年4月18日（火曜日）に、全国学力・学習状況調査が実施されました。
今回の調査を分析して、この調査から見てきた本市児童生徒の学力と学習状況に関する結果をお知らせします。

調査の目的・内容

(1) 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査対象

国・公・私立学校の小学校第6学年 中学校第3学年 原則として全児童生徒

(3) 調査事項

①児童生徒に対する調査

ア：教科に関する調査（国語 算数・数学 英語）

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は以下のとおり。

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。

イ：質問紙調査

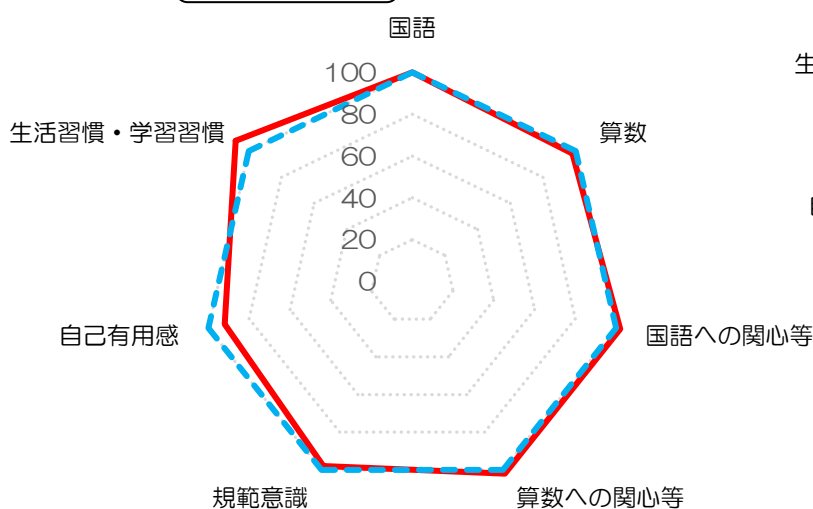
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等

②学校質問紙調査

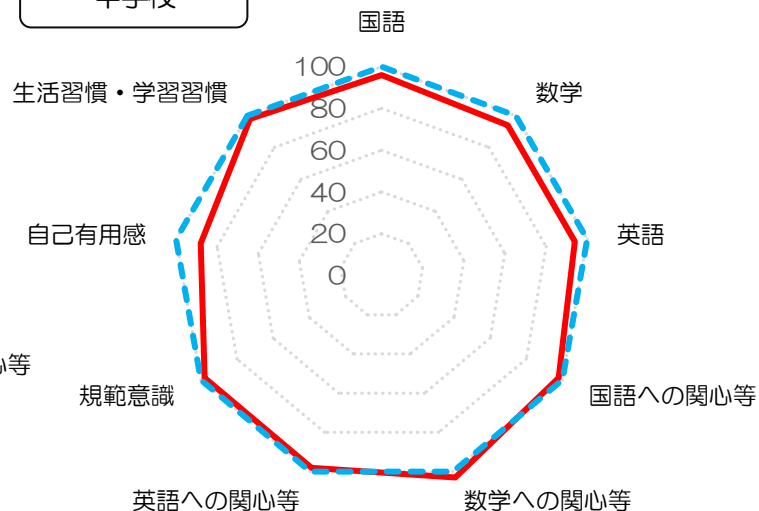
学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等

調査結果の概要

小学校

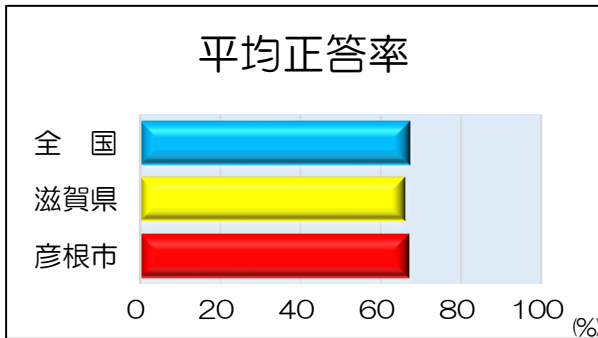


中学校

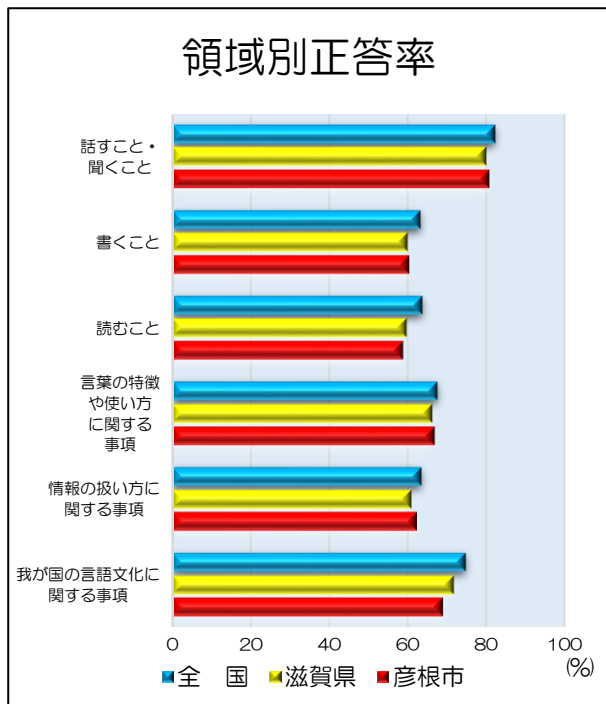
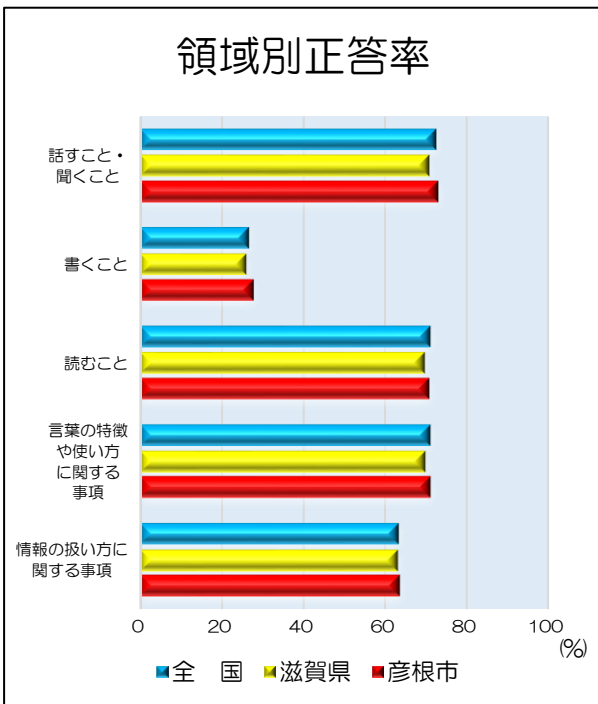
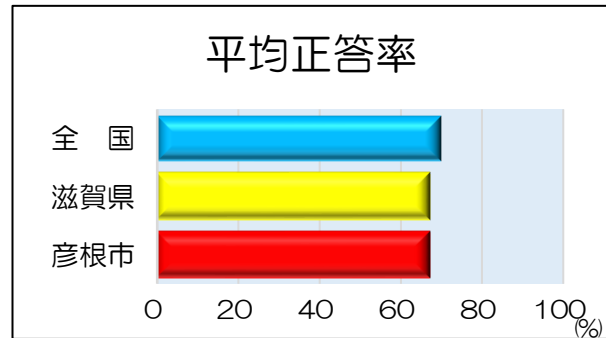


*全国の値を100としたときの市の値を表しています。■全国 ■彦根市

小学校（全14問）



中学校（全15問）



この調査から分かること

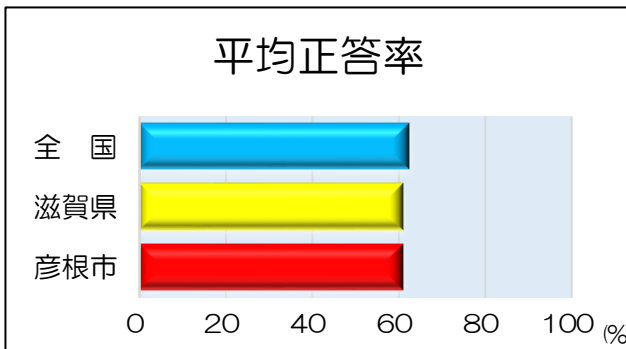
(結果の概要)

- 平均正答率は、小学校では全国平均を若干上回り、中学校ではやや下回りました。
- 領域別正答率を見ると、小学校では、「読むこと」の領域以外は、全国平均を上回りました。中学校では、全ての領域で全国平均を下回りました。
- 小学校の記述問題では、全ての記述問題において、全国平均を上回ることができました。中学校では、全ての記述問題において、全国平均を下回りました。
- 小学校の記述式問題の無回答率が全国平均よりも低く、粘り強く問題に取り組む姿勢について改善が見られました。中学校の記述式問題の無回答率が全国平均よりも高い傾向でした。

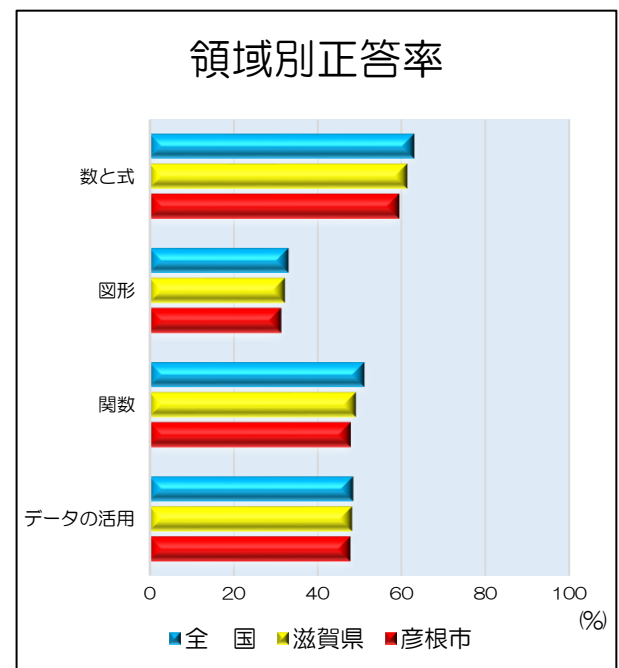
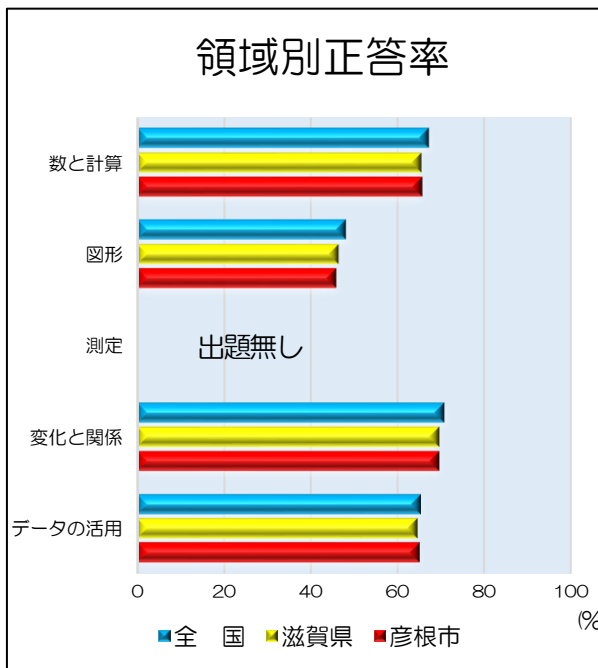
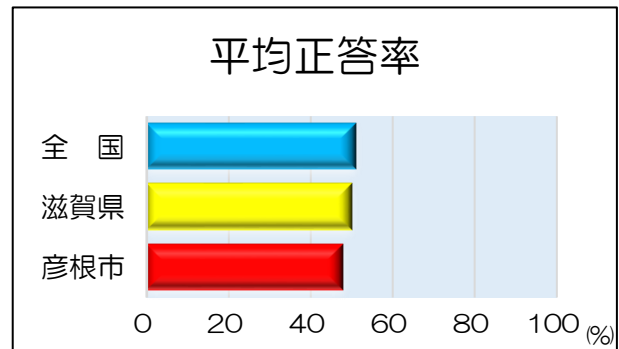
(求められる力)

- 小学校では、「目的に応じて、複数の資料から必要な情報を取り出して整理し、自分の考えをまとめる力」を身に付けさせることが求められます。
- 中学校では、「文章や構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えられる力」を身に付けさせることが求められます。

小学校（全16問）



中学校（全15問）



この調査から分かること

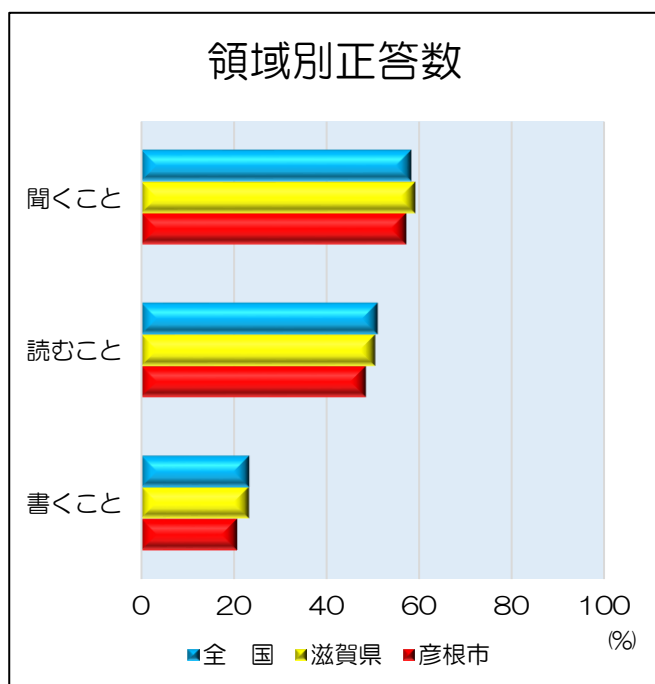
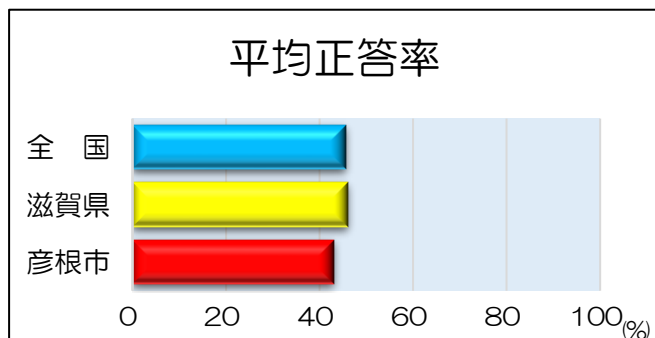
(結果の概要)

- 平均正答率は、小学校では全国平均を若干下回り、中学校では若干下回りました。
- 領域別正答率を見ると、小・中学校とも全ての領域で全国平均を若干下回りました。
- 小学校では、図形領域で「特別な図形の意味や性質について正しく理解する力」に課題が見られました。中学校では、関数領域で「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する力」に課題が見られました。
- 小学校の記述式問題の無回答率は、全国平均よりも低く、粘り強く問題に取り組む姿勢について改善が見られました。中学校の記述式問題の無回答率は、全国平均よりも高い傾向でした。

(求められる力)

- 小学校では、「具体的な数値が示されていない場面において、問題を解決する際に必要な情報を見い出したり、適当な数値を当てはめたりして考える力」を身に付けさせることが求められます。
- 中学校では、「領域を問わず数学的な表現を用いて説明する力」を身に付けさせることが求められます。

中学校（全17問）



*「話すこと（発表・やりとり）」に関する問題別の結果については、「参考値」としての公表となっており、都道府県別、市町別の公表は行われておりません。

この調査から分かること

（結果の概要）

- 平均正答率は、全国平均を下回りました。
- 領域別正答率を見ると、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の全領域で、全国平均を下回りました。
- 「書くこと」の領域では、「日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書く力」に課題が見られました。

（求められる力）

- 「読んだことを基に自分の考えとその理由を書く力」や、「日常的な話題について、事実や自分の考えを整理し、まとまりのある英文を書くための力」を身に付けさせることが求められます。
- 英語で表現することに慣れるために、日頃から継続的に書く活動に取り組み、活用できる語彙や表現、文法事項など知識や技能を身に付けさせることが求められます。

「彦根教育学びの提言 プラス ひこねっこ こころそだての6か条」について

彦根市教育委員会では、これからの時代を生きるうえで重要な「非認知能力」を子ども達に育むことをめざして、「彦根教育学びの提言 プラス ひこねっこ こころそだての6か条」を令和2年度に作成しました。子どもの身近にいる大人の考え方や言動等は子どもの非認知能力を育てるための重要な環境であることから、子ども達へのメッセージと共に、大人たちへのメッセージも示しています。

全国・学力状況調査の児童生徒質問紙の回答状況について、「彦根教育学びの提言 プラス ひこねっこ こころそだての6か条」の視点で分析し、彦根市の子ども達の育ちについてまとめてみました。

<非認知能力> 3つの能力とそれぞれの能力を構成する要素

○目標の達成

・忍耐力 ・自己抑制力 ・目標への情熱

○他者との協働

・社交性 ・敬意 ・思いやり

○情動の制御

・自尊心 ・楽観性 ・自信

(出典 「非認知能力が子どもを伸ばす」中山 芳一 著 東京書籍)

彦根教育学びの提言 プラス

彦根市教育委員会

ひこねっこ こころそだての6か条

い

いいんだよ ありのままです！

★子どもは、大人の温かい関わりに安心や信頼を感じます。話をじっくり聞くこと、ありのままを認めることが大切です。

い

いっほ
一歩ふみだし やってみよう！

★「まず、やってみよう！」「なんとかなるよ！」と応援しましょう。小さな成功体験や失敗から学ぶ経験の積み重ねが、子どもの力を伸ばします。

な

なぜ？どうして？は まな
学びのチャンス☆

★子どもの疑問に寄り添い、「～したい！」という気持ちを大事にして、探究心をはぐみましよう。

お

おも こころ
思いやりの心で つながろう！

★「自分なら…」「自分がされたら…」と一緒に考えながら、相手の気持ちを思いやる大切さを、子どもの心に届けましよう。

す

すこ じぶん
少しのがまん 自分のために☆

★目標達成に向けて、一緒に「計画をたてる」「ルールを決める」などして、時には我慢も必要なことに気づかせながら、自分で判断し行動できる力を育てましよう。

け

げんき ゆめ む
元気にチャレンジ 夢に向かって☆

★結果のみに注目したり他者と比べたりするのではなく、がんばりや成長をほめて励ますことが、子どもの次のやる気につながります。

「彦根教育学びの提言 プラス ひこねっこ ころそだての6か条」の視点での
児童生徒質問紙の分析について

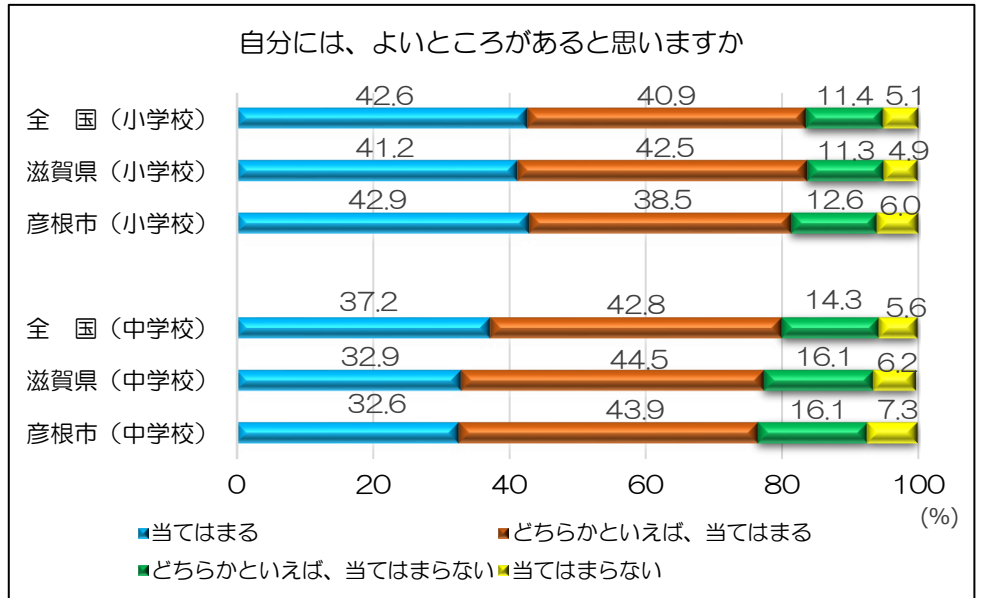
※グラフの数値について、小数第2位以下は省略しています。

い

いいんだよ ありのままで！

小中学校ともに 75%以上の子供が肯定的に回答しました。しかし、一部に肯定的でない回答も見られました。

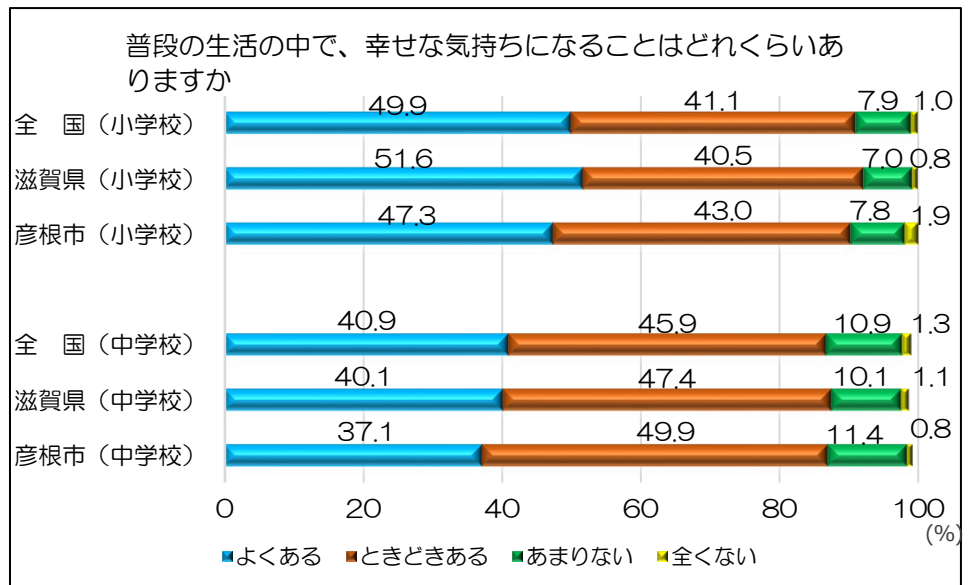
学校、家庭、地域において、子どもの話を聞き、成功体験だけでなく失敗体験も含め、チャレンジした姿勢を認め・励まし、自己肯定感を育むことを大切にしていきたいものです。



い

一歩ふみだし やってみよう！

小学校では90%、中学校では85%程度が肯定的に回答しました。子どもの自己肯定感を高め、難しいことにも、失敗を恐れず挑戦しようという気持ちに寄り添い、そっと背中を押してあげてください。挑戦したことや、その過程を認め、小さな成功体験や取組の積み重ねが、一つの自信となります。



な

なぜ? どうして? は 学びのチャンス☆

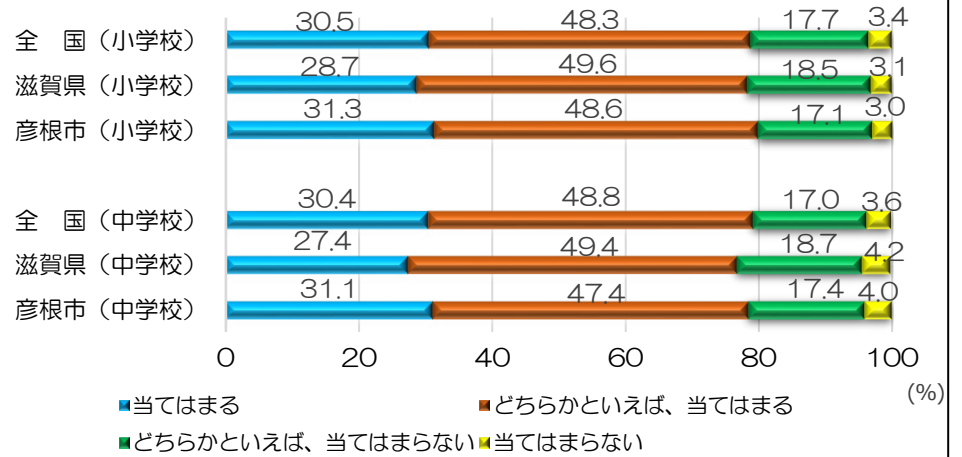
小学校では80%程度、中学校では75%程度が肯定的に回答しました。

正答率とのクロス集計では、肯定的に回答した子どもは、教科の正答率も高い結果となりました。

「探求心」は、思考力や観察力の土台となる力といえます。「探求心」を育てるために、子どもの疑問の気持ちに応え、一緒に考えたり、探したりする姿勢を大事にしたいものです。



授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



お

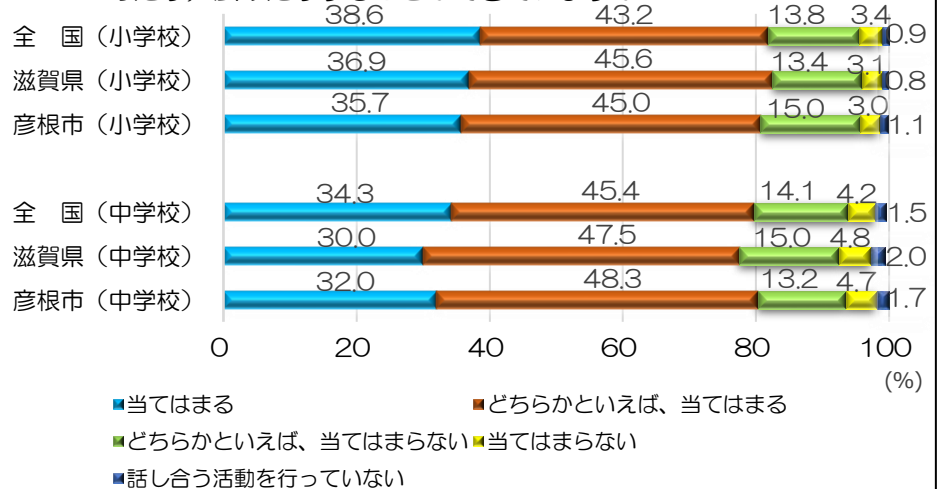
思いやりの心で つながろう!

小中学校ともに80%程度の子どもが肯定的に回答しました。

話し合い活動を充実させ、今まで知らなかった考えを周りの人から取り入れ、「なるほど、そういう考えもあるのか。だったらこれはどうかな?」というように、考えを深める授業づくりを工夫し、進めていきます。



学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか

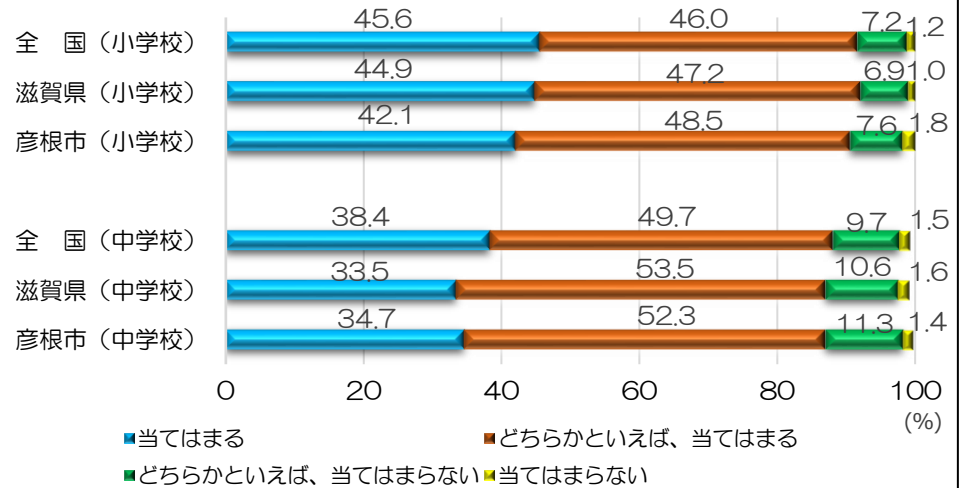


「人が困っているときは、進んで助けていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という問いに、小中学校ともに85%以上の子どもが肯定的に回答しました。

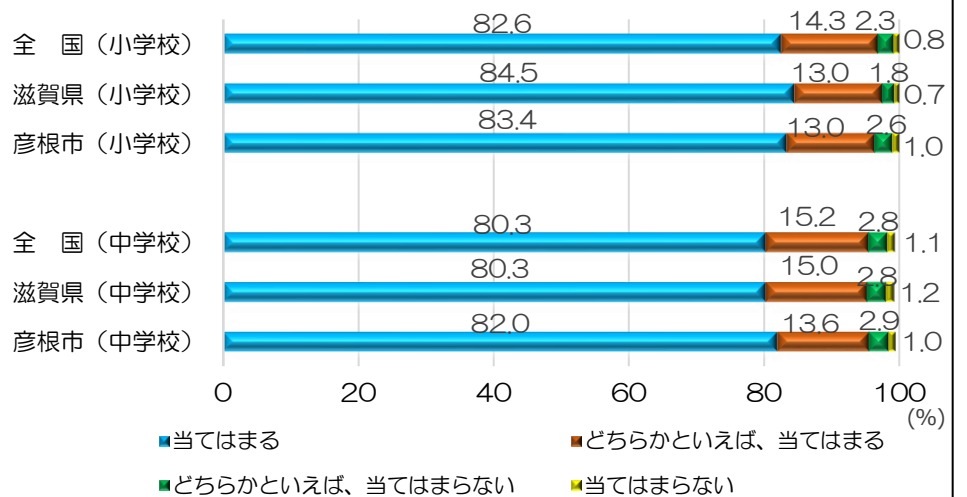
思いやりの心を育むには、共感することが大切です。親や周りの大人に自分の気持ちを共感してもらい、自分の気持ちが満たされることにより、相手を思いやり、協調性を育むことにつながります。



人が困っているときは、進んで助けていますか



いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



す

少しのがまん 自分のために☆

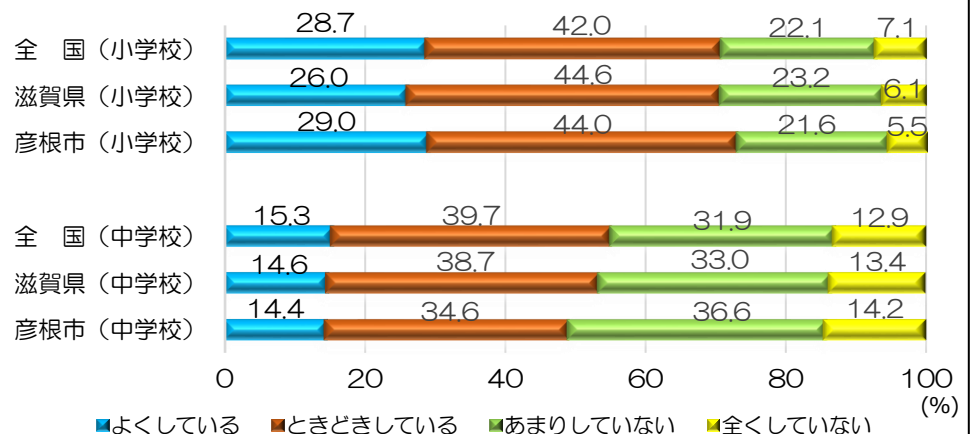
小学校では肯定的な回答が全国平均を少し上回りました。中学校では、50%程度が肯定的に回答しています。

正答率とのクロス集計では、肯定的に回答した子どもは、教科の正答率も高い結果となりました。

自分の課題を明確にし、計画的に取り組み、力を伸ばしていこうとする態度を育てていきたいと考えます。



家で自分で計画を立てて勉強をしていますか
(学校の授業の予習や復習を含む)

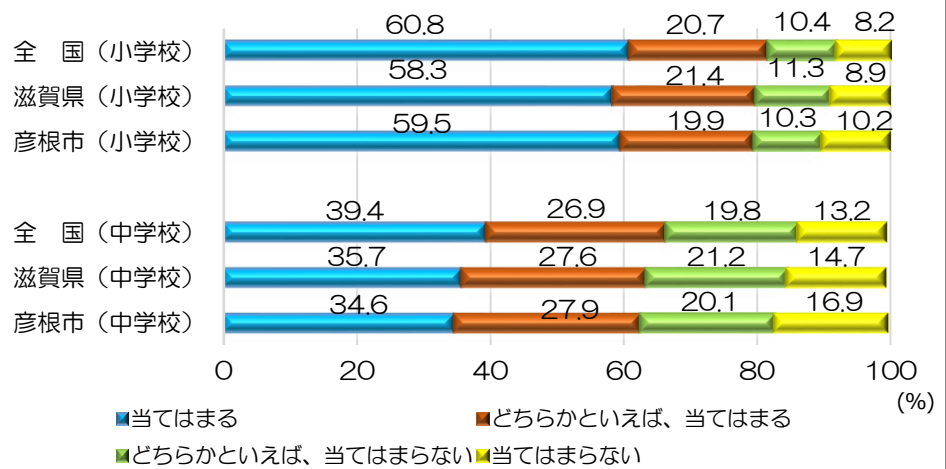


小学校では、80%程度、中学校では60%程度が肯定的に回答しています。

子どもが自分でやろうとした意欲や姿勢を認めることが大切です。結果だけでなく、途中経過の努力をほめられた子どもは、目標に向かって努力を惜しまずに取り組むようになります。



将来の夢や目標を持っていますか



保護者・地域のみなさまへ

変化の予測が難しいこれからの時代を生き抜くために、子ども達には、主体的、自律的にキャリアを切り拓いていく能力の獲得と向上が必要不可欠です。そして、学校を離れてからも自立して学び続けることが必要になります。そのため、市教育委員会では、学習指導要領で示された3つの柱「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の育成を目指し、取組を進めています。とりわけ、「学びに向かう力・人間性等」の育成につながる「非認知能力」を伸ばすことが大切であると考えております。

「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」「自分には、よいところがあると思いますか」「読書が好きですか」という質問項目に、肯定的に回答した子ども達の教科の正答率が高いという結果が見えてきました。改めて、「非認知能力」を伸ばすことが確かな学びの定着にもつながっていくことがわかります。

今後、これらの調査結果をもとに学校と連携して課題の改善に努めてまいります。

学校においても、自校の調査結果を分析して授業改善に生かし、子ども達の心を育む授業づくりに努めていきます。

家庭や地域では、子ども達のがんばりを認め、温かいメッセージを伝えることで、安心してチャレンジできる環境づくりにさらなるご協力をお願いします。

学校、家庭、地域が一体となって、子ども達を見つめ、励まし、支えることにより、子ども達の学びを豊かにし、これからの新しい時代を生きるうえで重要な「非認知能力」を含めた「生きる力」を育成していきたいと考えます。今後も一層のご協力をよろしくお願いします。